

## 令和7年度第1回静岡市環境審議会 議事録

【日 時】 令和7年8月27日（水）10:00～12:00

【場 所】 静岡市役所新館 17階 171・172 会議室 （葵区追手町5番1号）

【出席者】

<静岡市環境審議会委員>

石田委員、内田委員、木村委員、小杉山委員、久保田委員、宗野委員、八木委員、太田良委員、海野委員、柴崎委員

<静岡市>（事務局：GX推進課）

大村環境局長、大畑森林政策統括監、佐藤環境局次長、織部環境政策監  
剣持森林経営管理課長、石田エコパーク担当課長、興津環境共生課長、環境共生課中村係長、GX推進課廣田課長補佐、GX推進課伊熊係長、佐藤環境保全課長、渡邊ごみ減量推進課長、坂野廃棄物対策課長、和田環境保健研究所長、岡本中山間振興課長

- 【議 題】
- (1) 環境関連計画の令和6年度進捗状況について
  - (2) 静岡市脱炭素先行地域の進捗状況について
  - (3) 南アルプスユネスコエコパーク管理運営計画について
  - (4) 南アルプスユネスコエコパークミュージアム(通称M:1)について
  - (5) 市有施設照明設備LED化について(報告)
  - (6) その他報告事項
    - ① (仮称)静岡市森林経営管理計画策定について(情報提供)
    - ② 静岡市第4次総合計画の改定について(情報提供)
    - ③ 新環境保健研究所について など(情報提供)

【(1)～(6)に関する質疑、意見等】

<議題1>

(小杉山委員)

河川アドプトプログラムについて。常葉大学では、現在県土木部が主催するリバーフレンドシップ協定を結んでいるが、河川は違うものの巴川の環境整備の活動を始めており、そういった活動を兼ねてやることは可能か。

もう1点。この将来計画の中で、回数や参加人数を指標にして評価するのも良い試みだと思うが、昨今の生物多様性の考え方の中では、30by30(サーティ・バイ・サーティ)という面積を指標にする考え方がでてきている。静岡市の方でも現在指定している場所の面積を把握した上で、その保全面積を増やしていく計画はあるか。

(環境共生課)

生物多様性地域戦略の保全面積の指標はほとんどない。しっかりしたデータを持っていないこともあり、市として増やしていきたい思いはある。麻機遊水地、井川市有林、三菱電機ビオトープなど、他にもいくつか動きがあることについても承知している。その点について市としても、企業に働きかけて、自然共生サイトを増やしていきたいと考えている。また、面積を指標とすることについては、今後の地域戦略の中で、指標見直し等を行っていく。

(小杉山委員)

麻機遊水地については、浅見先生が、外来種の駆除活動等もやられていて、いろんな形で繋がりがあがるため、本学も協力を惜しまないつもりである。麻機遊水地の計画の中に、将来的にラムサール条約に登録を目指すという表現があったと思うが、それについてはどのように考えるか。

(環境共生課)

10 年くらい前に第2次静岡市総合計画の中で登録を目指すという動きがあったことは承知している。中心になっていたのが、麻機遊水地の保全活用推進協議会だが、現在は事務局を都市局が所管しているため、現状把握できていないが、また調べてご回答させていただく。

(柴崎委員)

事業系ごみの年度ごとの計画を見ると、実績が計画よりも下回って、達成されている印象が強いが、進捗が◎ではなくて○というのは、まだ2030年までのプロセスの一環で、見込みがあるという理解でよいか。

(ごみ減量推進課)

家庭ごみについても同様であるが、事業計画につきましても、例えばコロナの影響を受けて一時的に下がった経緯があり、その意味で年度の変更はこの先も大きく増えるものと考えている。そのような短期的な事情を踏まえても、長期的に減少傾向を保っていくこと、そして2030年目標年度に向けて、最終的に目標達成することが肝心であると考えている。

(柴崎委員)

増減があって2030年までに達成ということでよいが、目標値・指標を現実ベースで変更していくというプロセスが良いと思っている。やはり10年後を見越して目標立てるが、目標値をあくまで変えないよりは、現状に合わせながら目標値を修正していくのがよいのではないかと。

(事務局)

環境基本計画は、計画期間が8年間で策定されている。タイミングとしては、次の2026年で

ようど中間になるため、適宜見直しは可能と考える。大きく4次総の内容見直しに合わせて、変更の必要を判断し、次回からご審議をさせていただく。

#### <議題2> GX 推進課から説明

(宗野委員)

清水駅東口のエネオスの整備箇所は、設備増強の検討に入っているという点について伺う。スタジアムを作った場合には、そこでの電源を全部新しいシステムでとなれば、供給数に対しては今よりもたくさん用意しないとできないと思うが、それができるスペースがあるか。

(GX 推進課)

エネオスパワーさんとお話をさせていただき、平置きで太陽光を置ける部分や、これからその需要をどういった設備・施設で使うかを検討していく段階にあるため一概には言えないが、屋根や遊休地といった置けるスペースはあるので、その部分を増強するかという点については、周辺のにぎわい作りの検討状況に応じて検討を進めていく。

(久保田委員)

会社で住宅建築をやっている。一般住宅の太陽光の処分に非常に苦慮しており、現状10年経過し売電ができなくなったあとも、メンテナンスが必要になるケースが出ている。手放すとしても会社は引き取らず、ごみになっていく。補助金を出して太陽光を導入する場合、この問題にはどう対処していくのか。

(GX 推進課)

国全体としても太陽光パネルの廃棄が大きな課題になっている。国もガイドライン策定や、静岡県も現在、廃棄に向けた検討会のようなものを立ち上げている。具体的にはただ廃棄するだけではなく、リサイクルがどのようにできるのか、先進事例を共有しながら各自治体で目下検討している。市としても課題として認識はしているものの、どのような形で進めていくかはまだ検討段階にあるため、背景についても認識をあらたにし、どのような施策を打ちだすかを進めていかなければならない。

(川嶋委員)

日の出エリアの景観の話があったが、太陽光パネルを設置するにあたり、自然環境への配慮の点について教えていただきたい。

(GX 推進課)

全国的にもメガソーラー建設にあたっては景観や自然環境、生活環境への懸念が多く、各種問題が生じている。このため静岡市でも太陽光導入のガイドラインを作成し、それぞれの地域住民への説明や、個別の対応を中心に進めている。清水港色彩計画についても、法定計画ではないが、多くの企業様からご協力をいただき一体的な港のデザインを進めている。事業性を確保する上では、一面に敷き詰めたいところがあった一方で、やはりその緑色を基調に景観を守るという点は意識した部分であった。そのような中で、事業性を担保できるギリギリのところまで景観に配慮し、緑の屋根に見えるように工夫をした。我々としても、何が何でも太陽光を乗せていくというわけではなく、地域の皆さんとの調和を図りながら、再生可能エネルギーを導入していく方向性で今後も政策を進めていきたい。

(八木委員)

ソーラーパネルのメーカーはどこか。

(GX 推進課)

ほとんどが中国製であり、世界全体でみても中国製がほとんどを占めている。

(八木委員)

日本国内で優秀なパネルの開発がされつつあると聞いているが、国内で製造されたものの方が感覚としては安心安全だと思うが、その点について考えを聞かせてほしい。

(GX 推進課)

現在の太陽光パネルは、単結晶パネルと言って、元々、日本で製造していた。しかし、中国の開発力に負けて、国内生産がなくなってしまい現在中国製のものを使っているのが現状である。ペロブスカイト次世代型太陽電池については、元々素材は日本国内でも大量に生産しており、単結晶パネル、つまり、これまでの太陽光で失敗したこの戦略は、次にどう活かしていくかを国内全体でも、ロードマップや推進体制の構築により進められているところである。我々もそこに参加しているため、次世代太陽電池については、基本的には国内メーカーが頑張っているの、市としても実証事業として公共施設で活用し、これから市場導入されて普及していく際には、初期投資の支援のようなものも必要になると考えている。そういった支援策などについて国内企業を盛り上げていくというような施策も検討していきたい。

(八木委員)

いずれは次世代型太陽光発電の普及に切り替えていくということか。

(GX 推進課)

国内企業の育成といった観点や、国内経済の活性化という視点も重要であります。環境と経済を両立していくためにも、国内企業をもっと盛り上げていくことは大事だと考えている。

(八木委員)

その考えには大きく賛同する。

<議題 3>南アルプスビジネスとパーク管理運営計画の報告について

<議題 4>南アルプスエコパークミュージアムについて エコパーク推進担当課から説明

<議題5>市有施設照明設備LED化について(報告) GX推進課から説明

(木村委員)

ミュージアムについて、道を走っていても看板がなく、場所がわかりにくい印象があった。

(エコパーク推進担当課長)

順次設置しているが、足りないと思う。

(木村委員)

アクセスのところに掲載があるが、もう少しわかりやすいとよい。

(宗野委員)

残念ながら私はまだ行っていないが、聞くところによるとすごく良い施設だと聞いている。ぜひ行ってみたいという気持ちになった。それとは別に既存の施設との差別化がよくわからない。その点について市としてどのように考えているのか。

(エコパーク推進担当課長)

現状、隣接地にビジターセンターという施設がある。既存の施設の役割を含めて全体を統括する形でミュージアムを作ったため、再編の検討をしている。

(八木委員)

アクセスが重要課題だと思う。感覚としては、バスは難しそう。たとえば直通バスの整備は今後考えられるのか。南アルプスに人を誘導するにあたっては、アクセス面が一番課題ではないかと考える。

(エコパーク推進担当課長)

現在の公共交通機関でいうと、「横沢」エリアまで静鉄バスが運行している。そこから井川に至るまでは市の自主運行バスを定期的に運行している。(1日数本、所要時間2時間以上)自家用車でも1時半から2時間かかるため、アクセス面はずっと検討課題である。現在、民間事業者、行

政、県によるアクセス検討会議で検討をしているところであるが、民間事業者が事業採算性がとれないという厳しい現実がある。そこを補完するというまでではないが、今後ミュージアムで市街地からツアーで来ていただけるような企画を考えていく。まずは来ていただく、その次は自力で来られるように、長期的な政策で考えていく。

(加藤委員)

アクセス面が気になっている。片道4時間から5時間ぐらいかかると、行って帰って終わりという印象だが、宿泊情報については一か所しか掲載がないが、そこも含めて検討しているのか。また、目標の数字はもっているのか。

(エコパーク推進担当課長)

今年度は来場者数「7000人」という目標設定している。来年度は1万人、将来的にはもっと増やしていきたいと考えている。今年度の実績を踏まえ、将来的な目標値を考えていく。

(太田良委員)

子供が参加できるような企画はあるのか。

(エコパーク推進担当課長)

森作りツアーを実施している。市だけではなく様々な主体と協力しながら子供の企画を今後も実施していきたいと考えている。

(太田良委員)

e-bikeのレンタル井川は、自分の自転車での走行は可能か。ガイドの案内がないと域内を走ることはできないのか。

(エコパーク推進担当課長)

e-bikeはあくまでも運営事業者が所有するバイクを使って、周遊するもの。自分の自転車で周遊することについては問題なく、それについて規制をすることもない。

(久保田委員)

先日ミュージアムに行ったところ。市内にあるふじミュージアム(ふじのくに地球環境史ミュージアム)にそっくりであった。地元の方や、サイクリングをする人、バイクの人、いろいろ拠点もありながら、場所はすごくわかりやすい。ただ登るときに道が狭いので、すれ違いができないので、改善はて欲しいと思う。すべての階を使っていろいろやっているふじミュージアムと比較すると、これからだなという印象。地元の方々が参加というか含めていらしてくれて、滞在時間なども参考データとしてあったらよいのでは。

(エコパーク担当課長)

まだコンテンツが充実してない中なので、ミュージアムを見て食事をすると滞在時間は1時間か2時間と想定している。今後、井川の周遊でさらに奥の山に誘導できるようなコンテンツを考えておりますので、宿泊の課題も出てくるが、長くこのエリアにとどまっていただく、さらに奥まで行っていただける仕掛けを作っていく。

(内田委員)

南アルプスユネスコエコパークの認知度は、市民に対してか、それともオール静岡、国内など、全体を含めた調査なのか。

(エコパーク担当課長)

市民認知度となる。この調査は、第2次管理運営計画策定時に、様々な主体を対象に、200件ほどアンケートをとり、その結果に加えて昨年1年間の関連する市のイベントでアンケート調査を実施し、それらを合計した結果となる。

(木村委員)

資料5の柱のところに「自然環境の保全」とあり、目標値がライチョウ、高山植物となっているが、実際に南アルプスを歩いていると重要だと感じるのは、水場である。湧水地下水。その地下水がどのような状態かという実態を把握しておく必要があるのではないかと常々考えている。

登山者にとって水場があるかないかでは全然違う。また、山小屋の水源も非常に重要であるので、今のうちに水場の現状を調査して、データを収集しておいた方が良いのではないかと思う。

(エコパーク担当課長)

ありがとうございます。

山小屋運営をする事業者や我々も水源はある程度把握をしておりますので、情報発信していく。

(木村委員)

その水が今どれぐらいの量湧出しているのかということについて、リニア工事の関係があるので、重要になってくるのではないかと考えるが。

(エコパーク担当課長)

リニアの改編による影響は、ごく一部のエリアであり全部の水が枯れるということはない。さらに広域になるため、なかなか全容把握が難しいですが可能な限り水源の現状把握に努めていく。

(田中委員)

資料目標値のところ、自然環境の保全でライチョウが市内に生息していることを知っている割合であるが、どちらかというと自然活動の成果のようで、保全活動そのものの成果ではないような印象である。実際にライチョウの生息状況を把握することは難しいのか。

(エコパーク担当課長)

改善の余地はあるかと思う。毎年ライチョウ生息調査を実施し、生息数の把握をしているので、指標にはなりえるとも思う。改善できるところはこれから改善していく。

<議題 6>その他((仮称)静岡市森林経営管理計画について、静岡市第4次総合計画見直しの方向性について、環境保健研究所について) 事務局から説明

(石田委員)

研究所の業務内容は、普段から定期的に検査が行われているのか、感染症が流行った時に検査が行われるのか。分析業務などもあるのか。

(環境保健研究所長)

検査業務や調査業務が主な業務となる。

当研究所は、いわゆる地方衛生研究所と地方環境研究所の機能を併せ持った施設。こういった施設を国内の各自治体が有しており、全国的もしくは地方のいろいろな行政課題をネットワークを活用して解決することもできる。

(小杉山委員)

森林経営について。森林の問題は、例えば後継者不足の問題や、事業として成立するだけ製品が売れていくのかといった問題など、どちらかというとの経済寄りの話が強いと思うが、その業務が中山間地の対応と含めて、環境局に移管されたことによって、どのようなメリットがあるのか。

(森林経営管理課)

これまで木材産業を中心とした林業により、公益的機能が保全されてきたが、それだけでは立ち行かない状態。環境局に移管されたことで、GXの観点から、クレジットの関係などの様々な取組が強化されて、これまで木材が搬出できない森林についても、整備が進んでいくメリットがある。

(環境局長)

補足。経済的な支援をこれまで市としてやってきたが、相続問題などが加わり、手入れが行き届かず、結果的に災害を引き起こしやすい状況になっている。循環が悪くなっているということ。環境局に移管することで、森林のもつ環境価値やメリットをこれから生み出していく。その取り組みの一つが環境林という考え方。森林環境譲与税の財源を確保し、林業だけではない森林の

管理ができる仕組みを作っていく。その中ひとつとして、静岡市独自のカーボンクレジットを創出するための事業者を募集している段階。おそらく他の自治体で事例がなく、静岡市が先行して実施していくこととなる。

(小杉山委員)

森林が適切に管理されることは、生物多様性が保全され、鹿の食害などの問題解決につながるとう効果の側面に私個人は興味がある。しかし、その考えで様々な人たちと接すると、「お金を生まない」と言われることも多く、森林問題はまず後継者がきちんと育って行って、森林から切り出して製品が売れていくことの方が重要だという意見の方が一般的に多い。そのやりくりや、バランスをどうするのかいうことは課題だと感じている。

(大畑統括監)

これから循環林という新たな考え方を取り入れ、公益的機能の発揮や経済価値をもたらすよう取り組んでいくところであるが、小杉山委員のおっしゃるとおり、林業の木材生産としての事業が成立していくことも同時に達成しなければならない。現状市内には 4 万 5000 ヘクタールの人工林があり、この部分について今後、どれだけ林業を継続できるかという問題がある。さらに、広葉樹林として 5 万ヘクタールほどの広大な面積があり、それも環境林として管理をしていかなければならない。それらを含めて経済的価値、環境価値の両側面から、環境局で取り組んでいく。

(八木委員)

「家具メッセ」というイベントで、静岡県産の木を使った家具がないかを見ていたが、すべて輸入材であった。生産者の方からは、静岡県産木材を使った家具を作れないかと考えてはいたものの、それは叶わず少し目をつぶってきたところがあるといった声も聞いている。県産材の木材がきちんと域内で使われていないというのが残念に思う。新しくできた学習交流館を訪れたところ、すごく綺麗ではあるが、空気が悪いように感じた。このような施設に木材がふんだんに使われていたら、みんなこぞって来るだろうと思う。木でできた建物は実際にとっても気持ちが良い。それは木が切られたあと木材となっても、酸素を供給する機能を維持できていることで、建物の中にいる人は、まるで森林浴をしているような効果をもたらすためである。県内の循環林をぜひ今後市の公共施設建設に使っていただきたい。今は技術も発展して、ビルを木造で建設した事例もある。木材を使う機会はいくらでもあるのではないかと。林業はこれからの若い人たちが参入し、人気の職業になると思っている。これだけ緑豊かな街なので、そのような未来像をぜひ作っていただきたい。

(大畑統括監)

市産材を「オクシズ材」としてPRしている。商業施設の利用や、公共施設の木材利用についての案は以前からある。また、公共施設ではないが、今年度 6 月補正予算で、オクシズ材を使って住

宅を建築する方への補助事業を実施している。

(柴崎委員)

第4次静岡市総合計画の見直しの考え方に共感している。社会課題というのは、人口減少や気候変動、少子高齢化など様々な問題が複雑に絡まり合っている。そのような中で市の色々な目標、例えば省エネルギーに取り組む市民の割合など、実際にこの目標を達成するのであれば本気で考えなければならないと思う。この静岡市第4次総合計画の中にもあるように、市民やいろいろなステークホルダーが協働しなければならない。10年前 20年前なら、省エネルギーといえば、無駄な電気を消しましょう、車の代わりに自転車を使いましょう、ゴミはリサイクル・分別しましょう、それをその通りやればよかったのかもしれないが、今はそうではない。それと同時に、この複雑な社会情勢を見たときにどうするのが一番よいかを自分で判断しなければならない時代。では、そのような人材が育っているかという点を考えると、私は、この計画を達成するためには、教育が一番重要ではないかと思う。今の子供たちが10年後、20年後の社会を見据えた上で、ぜひ静岡市に環境教育、特に環境教育に力を入れていただきたい。

(佐藤次長)

今教育の重要性についてのご指摘はおっしゃるとおりである。同時にそれぞれの施策を打つ中でいかに効率的に教育につなげていくといったことも重要であると考え。グループや、街中の自然再生をするその市民と一緒にって取り組む過程そのものが、環境教育の側面も持っている、そのような理解で今後の取り組みを進めていきたい。

(事務局)

以上をもちまして、令和7年度第1回静岡市審議会を終了する。